

住居と事務所の二つの場を決して広くはない建物に上手くしつらえた。家族の玄関や打ち合わせ兼ダイニングの土間、屋根の形状に合わせた間仕切り上部の抜けなど、仕切りながら気配を感じるづくりが参考になる。庭まで含んだ各部の素材の活かし方は大変魅力的。

リフォーム前後の写真



〔改修前〕外観



〔改修前〕キッチン・ダイニング・リビング



〔改修前〕玄関



〔改修前〕洗面所・浴室



外壁は経年変化する杉板張りとし、庭を含めた移りゆく街並を地域の人たちと共有する 1



キッチンより、リビングとつながる庭 個室越しに土間へと広がる 2



視線・空気につながる打合せ室 3



地元の木工家による家具 4



視線が抜ける水廻空間 5



地元の庭師により整えられた庭 6



縁側付きの土間 7

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

■ 均質化された住まいの可能性：計画地周辺では、似たような住宅群に空き家が目立ち、開発によるマンションや低層コーポ住宅が廻りの街並みをつくっている。その中に在る祖父によって建てられた築40年の戸建住宅を、設計事務所を併せ持つ住まいへと改修する。この計画は、短サイクルで消費される、大量供給された均質化した住まいに、どれだけ豊かに暮らせるか、その可能性を探ることが目的としてスタートした。■ 街並みとともに在ること：外観には時間とともに変化する素材、杉板甲板を選択した。街の移りいともその表情は変化し、周囲と同じ時間を刻んでゆく。建物を包む庭も、既存の植栽を活かしながらのリノベーションとした。エントランスに近い部分は、人を迎え入れる“公の場”。そして、リビング・キッチンと繋がる緑の“私の場”を併せ持つ。■ 小さく広がる豊かな住まい：玄関部分には、打合せ兼ダイニングを設けてい

る。その代わりに家族の玄関となるのは、増築した縁側付きの土間。道路からの視線を遮り、物干し場となり、自転車置き場となり、夕涼みをする縁側となり。生活に密着する寛容な空間となる。建物内で試みたのは、区切られた室を用途に沿ってつなげること。天井を屋根形状にすることで、上部は視線や空気が通り抜ける。個室は間仕切り引き戸によって大きく開き、開閉自在とする。視線や空気をつながりを生むことで、小さく広がる豊かな住まいに近づくと確信している。■ この場所とともに生きる：売り手にとって都合のよい住宅により故郷の姿がつけられるなら、街並みは均質なものになってしまう。手を伸ばせば手に入るその土地の材料で、顔の見える地元の職人の手で、この地域の個性を磨き、人の技を紡いでゆきたい。地域と向き合い、人を招き入れ、住まいについて語り、豊かな住まいとそこから広がる街並みを求め、この場所から小石を投げ続けたい。

性能向上の特性

耐震性能、耐久性能、温熱性能、室内空気環境、バリアフリー性能

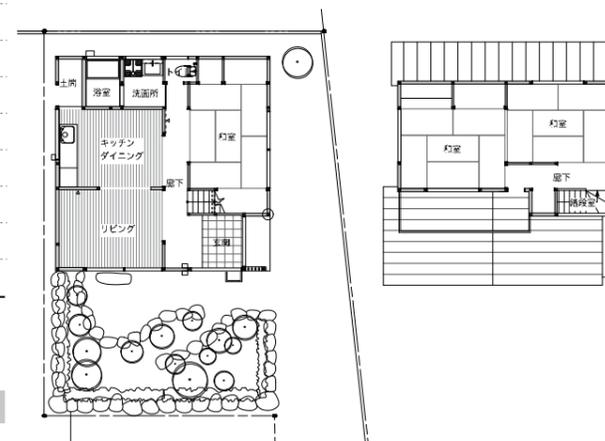
特に配慮した事項

耐震性の向上：現在の建築基準法に合わせて耐力壁をバランス良く配置した
地域性の考察：地域の材料・自然素材を使うこと。顔の見える職人の手仕事を活かすことを試みた。

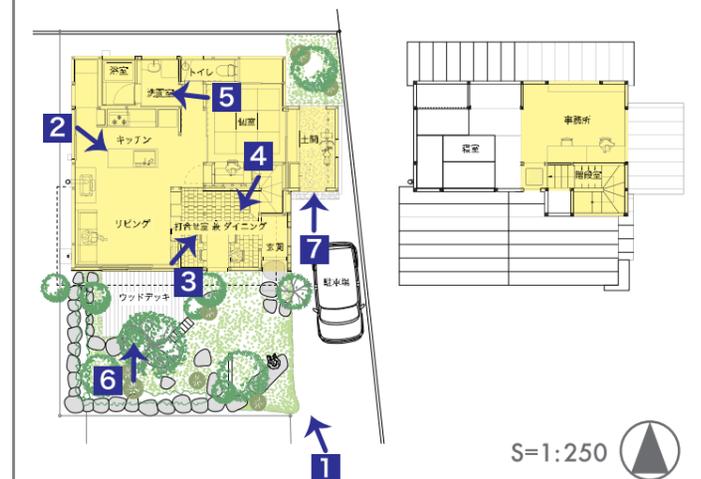
データ

所在地	広島県福山市	築後年数	40年	施工期間	270日間
該当工事面積	99.43㎡ / 総工事床面積 99.43㎡	該当部分工事費	1,500万円 / 総工事費 1,500万円		
居住者構成	15歳以上64歳未満：2人、65歳以上：0人、15歳未満：1人、ペット：				

リフォーム前



リフォーム後



リフォーム部位：■居室 / ■台所 / ■浴室 / ■便所 / ■洗面所 / ■廊下 / ■階段 / ■玄関 / ■エクステリア / □マンション共用部分